

## 熊本再春荘病院『難病サロン再春』の開設について

この度、神経難病で悩んでおられる患者様とご家族が、お互いの不安や悩み、療養上の知恵や工夫などを気軽に話し合ってもらい交流して頂くことを目的として、熊本再春荘病院内に『難病サロン再春』を開設する運びとなりましたので、お知らせ致します。

対象となられる方は、原則として当院を利用されている神経難病の患者様、介護者、ご家族、ご遺族ですが、ご利用者の紹介があれば、他院を利用されている方でも参加可能です。

会場は、当院旧リハビリ棟1階奥のスペースを利用します。開催日時は、毎月第1水曜日、13時30分～15時30分で、平成30年9月5日に第1回目を開催しました。

事前に病院ホームページ、院内掲示板で開催日を案内するとともに、熊本県難病相談支援センター、熊本県・熊本市福祉課、障害福祉相談所でも案内して頂きます。運営は、患者・家族の代表者様と当院地域医療連携室の両者で行い、必要に応じて神経内科医師、難病看護師、難病相談員がサポートします。

参加費は無料ですので、ふるってご参加下さい。

### 問合せ先

熊本再春荘病院地域医療連携室  
TEL (096) 242-1000  
FAX (096) 249-1900



## 開放型病院登録医紹介

### 菊陽台病院

院長／田中 孝明

菊池郡菊陽町久保田2984

TEL 096-232-1191 FAX 096-232-4389

診療内容／●一般医療 整形外科、内科、皮膚科、  
リハビリテーション科、リウマチ科

●在宅医療 通所リハビリテーション、  
訪問看護ステーション菊陽台、居宅介護支援事業所

診療時間／ 9:00～12:30  
13:30～17:10

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	○	×
13時30分～17時10分	○	○	○	○	○	×	×

菊陽台病院 田中院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまを紹介いただいています。

昭和52年に菊陽町に開業され、各科協力のもと病院全体でのあたたかな診療の提供に努めておられます。また、救急指定病院として地域における救急医療にも貢献されています。



## 病棟・部門紹介 No.1

# 東4病棟のご紹介

東4病棟師長  
大久保 祐子

東4病棟は、地域包括ケア病棟として、急性期治療を経過し病状が安定した患者様に対して、在宅や介護施設への復帰に向けた治療や支援を行う病棟として位置づけられ、地域包括ケアシステムを支える要として機能しています。

具体的には、整形外科や外科の術後及び急性期を脱し、介護保険を使いながら在宅・施設に帰る患者様に対して、訪問看護やケアマネージャー・地域の事業所と協力し、よりよい生活環境を提供できるように日々がんばっています。

入院早期より、患者様や御家族の意向を確認し、退院後の生活を視野に入れ、御家族、院内の多職種（医師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士等）とチームを編成し『時々病院、ほぼ在宅』が実現できるようスタッフ一丸となって支援を行っています。その甲斐あって2017年度の在宅復帰率は、91.4%と高い値を出す事が出来ました。

2025年問題が提唱されている中で、今後ますます、患者様自身の高齢化や支える御家族の高齢化が考えられます。患者様やその御家族と信頼関係を築く中で、多様化してきている患者様・御家族の思いを受け止め、退院のゴールを多職種で見極め、退院支援が必要な患者様に早期に介入して、患者様の生活に繋ぐことが大切だと考えています。

また、地域との連携を密にして、入院時から合同カンファレンス等を開催し、顔の見える関係の構築に尽力しています。



## 開放型病院登録医紹介

### ナカシマセブンクリニック

院長／中嶋 淳滋

合志市須屋1415-5

TEL 096-288-0777 FAX 096-288-0778

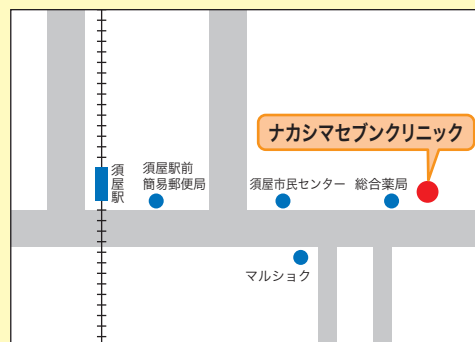
診療内容／内科（消化器・呼吸器・糖尿病・腎臓・内分泌）、アレルギー科

診療時間／ 9:00～12:30（土曜日は10:00～13:30）  
16:00～19:00

診 察 日	月	火	水	木	金	土	日
9時00分～12時30分	○	○	○	○	○	×	×
10時00分～13時30分	×	×	×	×	×	○	×
16時00分～19時00分	○	×	○	○	○	×	×

ナカシマセブンクリニック 中嶋院長先生には、平成23年7月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さまをご紹介いただいています。

平成22年に合志市須屋に開業され、内科を主体として地域の多くの患者さまの診療をされています。また、往診や訪問診療など患者さんに寄り添った医療にも貢献されています。





## 薬剤部のご紹介

現在、10名の薬剤師と2名の助手スタッフで、調剤、医薬品情報管理、薬剤管理指導業務、病棟薬剤業務等の業務を行っています。また、薬剤部長は治験事務局長を兼務し、治験等の業務にも携わっています。下記に薬剤部の主な業務などを紹介させていただきます。



### 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

安全で効果的な薬物療法の実施に貢献することを目的に、薬剤師が病棟へ常駐し、入院時の持参薬や処方薬が適正で効果的か、また、副作用がないかを確認しています。上記業務を行った上で入院目的（薬物療法、手術、検査）に沿った薬物の適正使用、効果の確認と副作用の早期発見と対処を意識して、薬剤管理指導を実施しています。

### がん化学療法薬無菌調製

がん診療検討委員会で承認されたレジメンをもとに、患者毎に適格基準、投与量、投与間隔を電子カルテで確認し、安全ながん化学療法の実施を行っています。なお、化学療法薬の無菌調製は全ての入院及び外来について行っています。

### 医薬品安全性情報報告・疑義照会

医薬品又は医療機器の使用により発生した副作用、不具合などの健康被害を国に報告し、安全対策の確保を図っています。医薬品安全性情報報告は医療従事者の義務であり、薬剤部では積極的に情報を収集し、該当する症例を報告しています。また、これら疑義照会の内容は、注意喚起や事例の共有を目的として各会議等にて報告しています。

### 他部門との連携

医薬品の適切な使用と安全性を確保するために他の医療スタッフと連携し、院内感染対策チームや栄養サポートチーム等のチーム医療に参加しています。

### 研修・研究活動

研究活動は日本医療薬学会等の各学会にて研究発表を行っています。また、実務実習指導施設として県内外の大学の薬学部5年生を受け入れて、指導にも力を入れています。

### 今後の展望

薬剤師は、他の医療スタッフと異なった視点に立つことで薬のスペシャリストとしての職能を発揮できると考えています。今後も、病棟薬剤業務等から医療の質の向上に貢献出来るような薬剤部を目指したいと考えています。





## 第4回 熊本再春荘病院学会について

管理課長 堤内 俊一

第4回「熊本再春荘病院学会」が、平成30年10月20日（土）に開催されました。

今回も6月より運営委員会を開催し、11月開催の国立病院総合医学会発表の予行練習を兼ねるとのことで準備が始まりました。

今回のテーマは「Reengineering～地域医療の視点から～」と決まり、1演題の発表時間を10分として演題募集を行いました。

最終的に、口演16題、ポスター発表5題の合計21題で、昨年より5題多くの応募がありました。

学会当日は、発表者を含め昨年より少し多い112名の職員の参加がありました。

冒頭に大会会長より、「この院内学会で、他部門が日頃どんな取り組みをしているかを知ることができるので、いい機会です。」との話があり、参加者は各発表者の取り組みを集中して聞いていました。各発表後は活発な質疑応答や意見交換があり、全演題発表が終了後、

参加者全員による投票となりました。

投票の結果は、1位に認知症ケアリンクナース委員会 遠山裕美看護師による「院内デイケア（桜ルーム）の現状と課題について」、2位に川上洋子臨床検査技師による「熊本県下13施設と熊本再春荘病院における血液培養解析報告」、3位に島津貴幸理学療法士による「当院のリハビリテーション科からみた地域包括ケア病棟－現状と今後の課題－」が選ばれました。いずれの演題も当院が現状抱える課題となっている事を取り上げてあるもので、皆さんの高評価を得る事ができたのではないのでしょうか。

表彰式では、この3名の方に大会会長より表彰状と副賞が渡されました。

次回も多数の演題応募と多くの職員の皆さんの参加を期待したいと思います。

学会の開催にあたり、準備等にご協力頂いた職員の方々に心より感謝いたします。





## 採用・異動職員からのごあいさつ

### ■ 医師（採用） .....

統括診療部 小児科医師

**藏田 洋文**（採用）

今年の10月より小児科で勤務しております藏田洋文と申します。前任地は鳥取県米子市にありますが鳥取大学医学部附属病院ですが、鳥取に異動する前は熊本大学小児科の関連病院で勤務していました。鳥取では小児神経領域の臨床と大学院生として基礎研究を行っていました。地域の皆様に信頼される医療を行い、皆様、子供たちの健康に貢献するべく頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。

統括診療部 小児科医師

**木下 裕哉**（採用）

10月から小児科で勤務しております木下裕哉と申します。私は熊本で育ち熊本大学医学部を卒業しましたが、初期研修は横浜労災病院という横浜の病院で行いました。その後、小児科を専攻し、半年間国立病院機構熊本医療センターで勤務後、熊本再春荘病院での勤務となりました。熊本再春荘病院の小児科は今まで経験することの少なかった神経疾患など、さまざまな疾患を経験することができ、とても有意義な日々を送らせていただいております。また、病院全体が穏やかな雰囲気でのスタッフも親切にしてくださり、とても働きやすい環境だと感じております。今後ともよろしくお願い致します。

### ■ 看護部（昇任） .....

看護部 副看護部長

**田中 陽子**（昇任）

この度、10月1日付で福岡東医療センターより昇任してまいりました田中陽子と申します。熊本再春荘病院は、桜がきれいと聞いておりましたが、赴任した時は玄関脇の金木犀が満開でよい香りに癒やされました。自然豊かなよい環境の中、来年度は新病棟への移転があり、ますます地域から求められることも大きくなると思います。

熊本再春荘病院に少しでも貢献できるよう精一杯頑張りますので、どうぞお願い申し上げます。

